

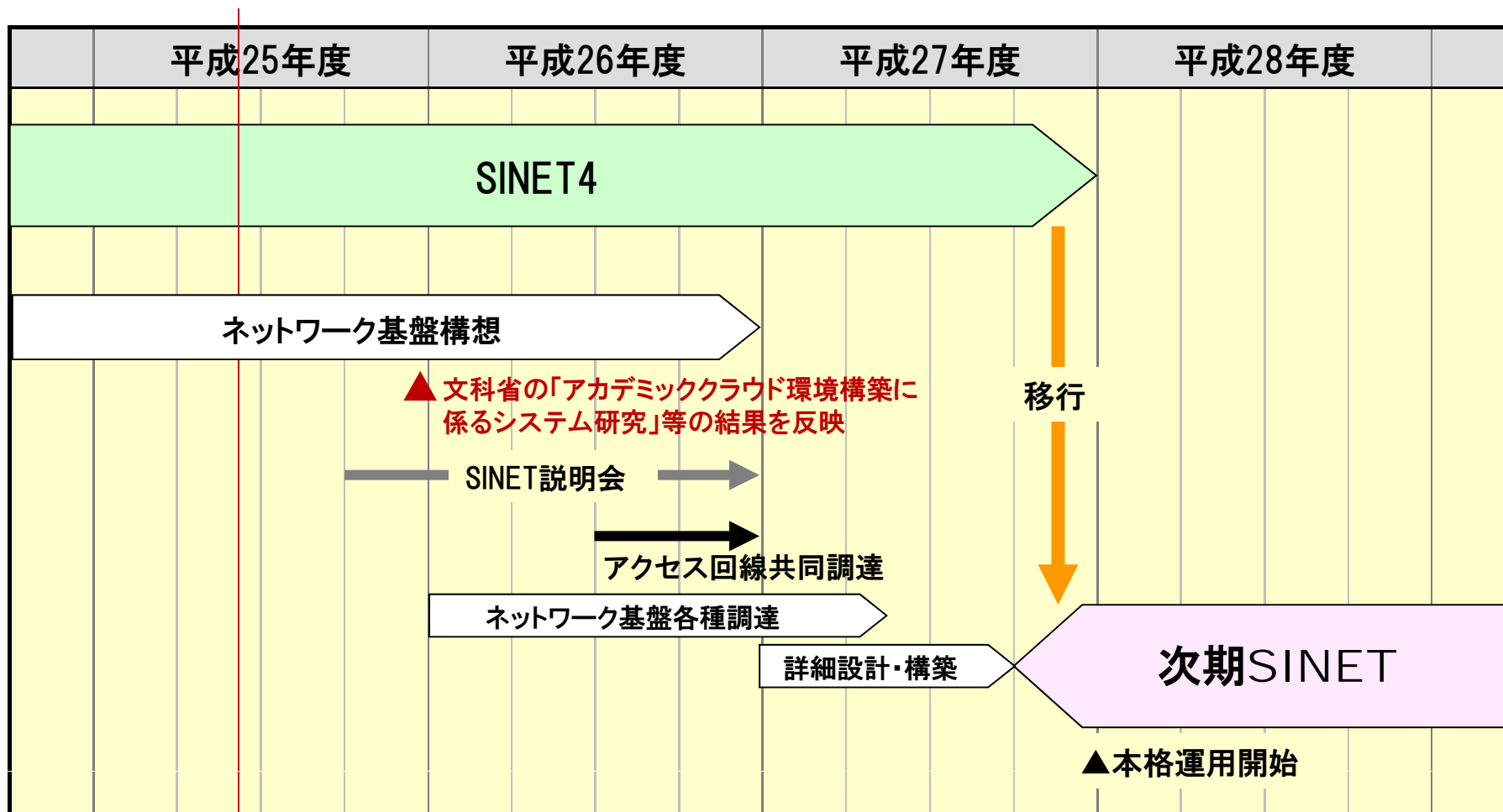


7. 次期SINETに向けて



7-1. スケジュール

- ◆ 最先端の研究開発、国際連携、教育の高度化、クラウド／ビッグデータ活用の基盤として、全県整備を基本として整備を推進する予定である。

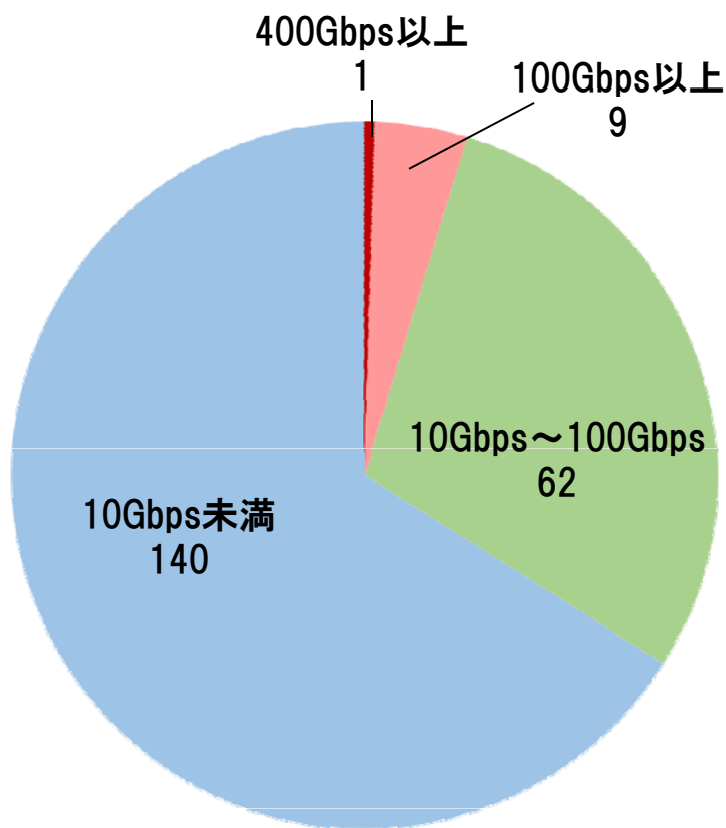


Today

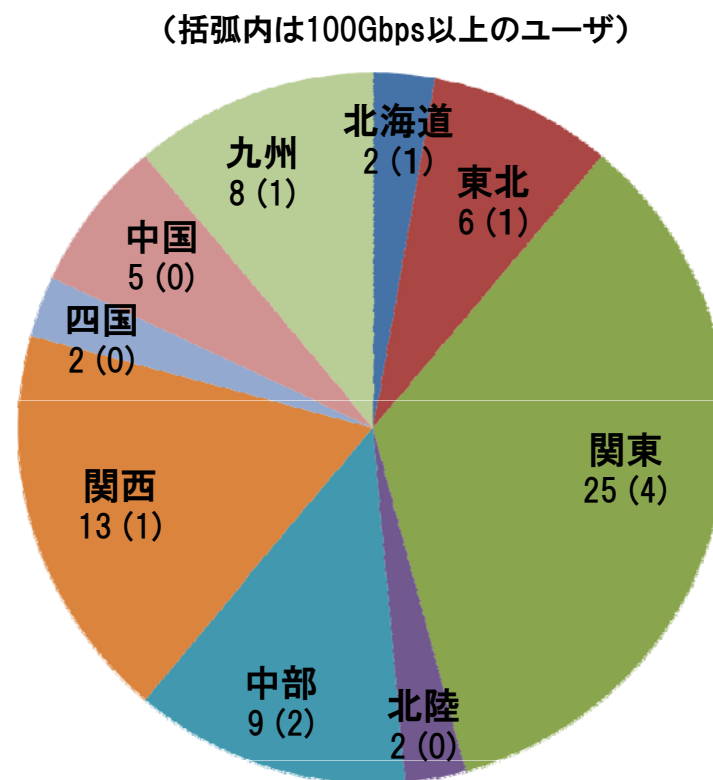


7-2. 次期SINETに向けたアンケート結果

- ◆ 次期SINETにおけるユーザの所要回線帯域に関してアンケートを行ったので、結果を以下に示す。
- ◆ 10Gbps～100Gbpsの利用が62件、100Gbps以上が10件(1件は400Gbps以上)であった。
- ◆ 10Gbps～100Gbpsのユーザならびに100Gbps以上のユーザは、全国的に分布している。



所要回線帯域とユーザ数



10Gbps～を必要とするユーザの分布

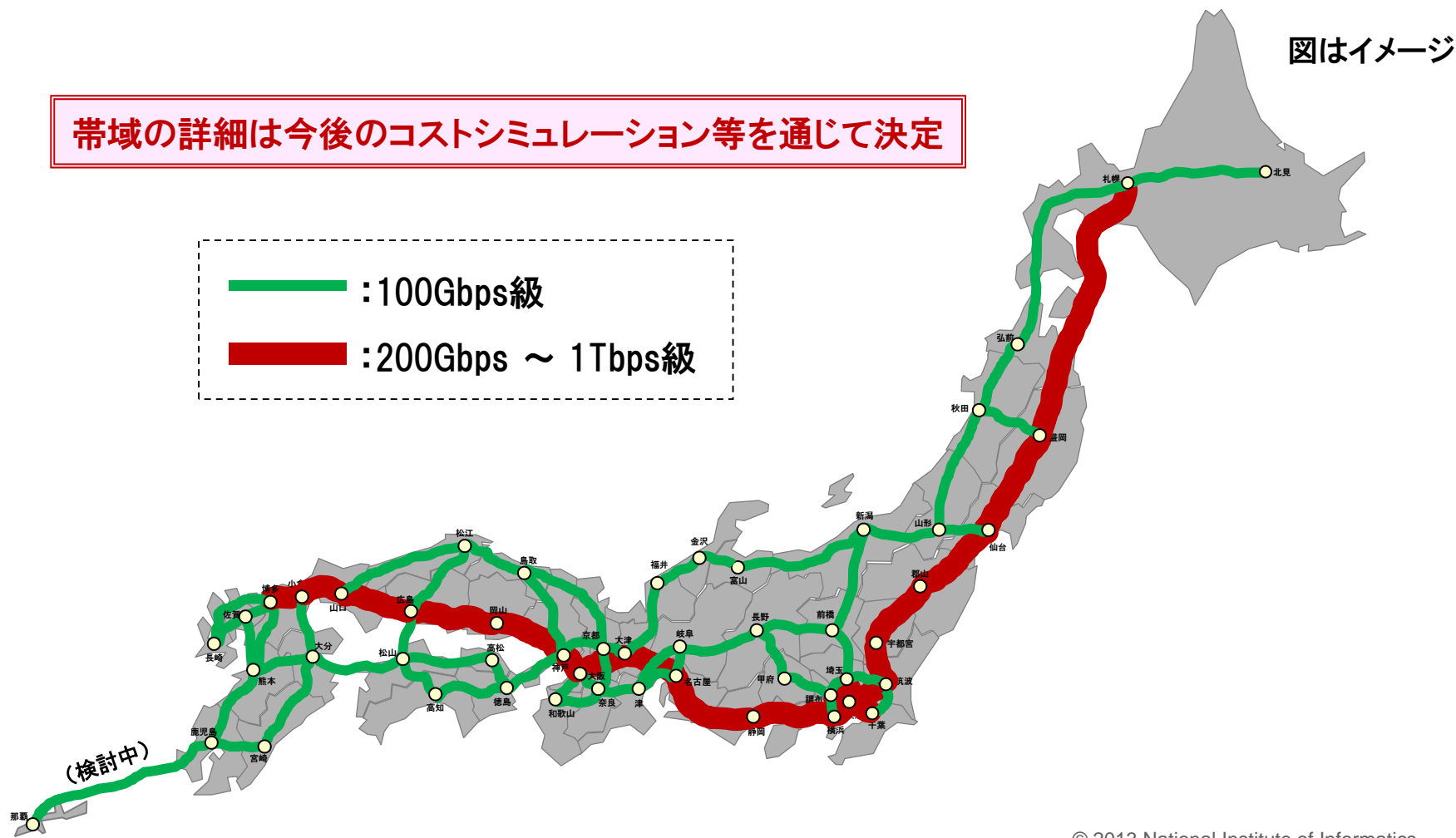


7-3. 整備イメージ

- ◆ 次期SINETでは、**全県100Gbps級(沖縄は要検討)、幹線系を200Gbps～1Tbps級で整備**
- ◆ 今後の400Gbps/1Tbps波長パスの追加などが柔軟に対応可能なように整備

帯域の詳細は今後のコストシミュレーション等を通じて決定

— : 100Gbps級
— : 200Gbps ~ 1Tbps級





7-4. 論点

- 次期SINETの位置付けでも、先端的学術研究の推進・連携に不可欠な最先端ネットワーク基盤であるとともに、我が国の大学等における学術研究や教育活動全般を支える情報インフラとして整備を推進
 - ✓ 最先端の研究開発、国際連携、教育の高度化、クラウド／ビッグデータ活用基盤
- 全県にSINETノードを配備
- 世界に伍する超高速・高信頼・高機能なネットワークとして整備
- 国際回線も100Gbps以上の帯域で整備
- アクセス回線の経費負担のあり方
- 「アカデミッククラウド環境構築に係るシステム研究」の結果を反映
- 大学図書館等と連携・協力した学術情報発信の強化